

奈良編 文化における和洋の融合

令和6年(2024)6月

<https://smtrc.jp/town-archives/city/nara/p05.htm>

写真でひもとく街のなりたち このまちアーカイブス

私たちが暮らす街のひとつひとつには、今日までの街の成り立ちがあり、それぞれの時代に生きた人々の歩みがあります。昔の写真をひもとき、その街の歴史や変遷をたどります。今は何気ない街並みの中にも、かつての街の面影や人々の思いを感じられる場所が残されています。 (HPより引用)

奈良編

文化における和洋の融合

「平城京」からの歴史をもつ奈良は、美術品、文化財の宝庫でもある。特に、「正倉院」が所蔵してきた宝物は、博覧会で人気となり、「帝国奈良博物館」創設のきっかけとなった。また奈良における女子教育の拠点「奈良女子高等師範学校」が開校、キリスト教の「奈良基督教会」が誕生するなど、和洋の文化が融合し、近代化が進んだ。

近代和風建築のキリスト教会『日本聖公会奈良基督教会』

1887(明治20)年、花芝町に「日本聖公会奈良基督教会」が開かれた。その後「興福寺」の境内に隣接する登大路町に移転。1930(昭和5)年に周囲の景観に配慮して、和風の礼拝堂と信徒会館が建築された。設計施工は同教会の信徒で宮大工の大木吉太郎氏が行った。

【画像は1930(昭和5)年】



奈良基督教会 正門

右の写真は1930(昭和5)年の「日本聖公会奈良基督教会」。中央奥に「興福寺」の「三重塔」が見える。

【画像は1930(昭和5)年】



奈良基督教会

文：ホームページより
写真提供：成瀬匡章氏